

かがやき無限大 みんなでつくる インパクトシティののいち

野々市市第二次総合計画 後期基本計画（案）の概要

令和8年10月9日 第2回野々市市総合計画審議会
野々市市

① 第1回総合計画審議会の概要

「基本構想」は変更せず、3つの「基本姿勢」を継続。社会環境の変化と市民意識調査や行政評価結果を踏まえ、分析した課題に応える内容に補強する。

前回審議会（R8.7.13）で確認・承認いただいた方針

	前期（旧）	後期（新）
1	市民協働のまちづくり	市民協働のまちづくり 補強：協働感低下への対応／DX視点／自然災害の教訓
2	SDGsの推進	SDGsの推進と強靱なまちづくり 補強：防災／環境保全／GX等を追加
3	「野々市ファン」の拡大	「野々市ファン」の拡大 補強：転入者の早期定着支援／まちの個性・魅力発信の再定義等

【見直しの考え方】 「継続」＋「データに基づく補強」 → 後期5年間で特に強化する取組を「加速化プロジェクト」へ

② 加速化プロジェクトの考え方

基本姿勢の「補強」を、分野横断・重点化・相乗効果につなげる仕組み

前期の進め方

31施策を
各分野で総合的に
推進



+ 社会環境の変化
+ 市民意識・行政評価

後期の重点化

重要性

分野横断

相乗効果

今後5年間に
特に強化する取組を抽出



重点的に推進する視点

1

市民協働のまちづくり

- ・協働感・参画感の醸成
- ・行政情報の発信と透明性向上
- ・デジタル技術を活用した参加環境
- ・市民同士のつながり

2

SDGsの推進と強靱なまちづくり

- ・強靱なまち実現
- ・GX推進と環境保全
- ・高齢化×生活の質向上

3

「野々市ファン」の拡大

- ・転入者の早期定着
- ・まちの個性・魅力の再定義
- ・デジタル技術によるネットワーク強化

31施策を「加速化プロジェクト」で分野横断的につなぎ、取組の相乗効果を高めて将来都市像の実現を加速

加速化プロジェクト① 市民協働のまちづくり | 主な見直し内容と成果指標

1 協働感・参画感の醸成

参加の入口を増やし、対話の機会を充実。自らのアイデアでまちが変わる「実感」を育てる。

関連施策

- 1-1 共に考え共につくるまちづくり
- 5-2 みんなで取り組む青少年の育成
- 5-3 生涯学習の充実

主な見直し・強化

- 対面・オンラインによる市民提案・企画参加を促進
- 市民意見の反映状況・協働成果を発信し「参加の入口」と「実感」を拡大
- 大学・企業との連携や地域活動を、地域課題の解決につなげる

主な成果指標

- ▶市民と行政が共に協力してまちづくりを進めていると感じている市民の割合（市民意識調査時点）
- ▶市民活動センター登録団体の合計数（年度末時点）
- ▶大学と行政の協力事業数（／年）

策定時 → R7実績 → 目標値

43.1% → 36.4% → 54.0%

42団体 → 48団体 → 60団体

112事業 → 122事業 → 162事業

2 行政情報の発信・透明性の向上

必要な行政情報を丁寧・分かりやすく発信し、市民・行政・民間が対等に協働できる土台をつくる。

関連施策

- 8-1 開かれた市政の推進
- 8-3 安定した行財政運営の推進

主な見直し・強化

- 広報紙・ホームページ・SNSを対象や目的に応じて使い分け、情報発信を改善
- ふれあいミーティング等で市民の声を聴き、施策・サービス改善に反映
- AI・RPA等を活用した業務効率化と、持続可能な行財政運営を推進

主な成果指標

- ▶石川中央都市圏ビジョンの個別事業数（／年）
- ▶迅速で適切な行政サービスが受けられていると感じた市民の割合（市民意識調査時点）
- ▶AI・RPAなどの革新的技術を活用した業務数（累計）

策定時 → R7実績 → 目標値

77事業 → 100事業 → 105事業
(82事業から変更)

44.6% → 50.5% → 60.0%

1業務 → 4業務 → 9業務

3 デジタル技術を活用した参加環境の構築

デジタルを「つながりの道具」として活用し、対面・オンラインを組み合わせる参加しやすくする。

- 関連施策
- 1-1 共に考え共につくるまちづくり

5-3 生涯学習の充実

8-2 人材育成の推進

- 主な見直し・強化
- 公共施設のデジタル環境を充実し、対面・オンライン双方で活動を支援

電子図書館やオンライン学習など、時間・場所に左右されない参加機会を拡大

職員のAI・DX活用力を高め、地域課題の解決や政策形成につなげる

主な成果指標	策定時 → R7実績 → 目標値
▶公民館、女性センター、市民学習センター（カレード）利用者数（／年）	94,213人 → 174,135人 → 200,000人
▶市立図書館貸出冊数（電子書籍含む）（／年）	533,094冊 → 524,273冊 → 676,000冊
▶研修計画による自己啓発研修参加職員の割合	8.9% → 10.3% → 15.0%

4 自然災害を教訓とした市民同士のつながり

平時から居場所や交流の機会を増やし、いざという時に支え合える強いコミュニティを形成する。

- 関連施策
- 1-1 共に考え共につくるまちづくり

3-1 自然災害を教訓とした防災対策の充実

3-2 消防と救急体制の充実

- 主な見直し・強化
- 平時から誰もが集まれる居場所や交流機会を増やし、地域の輪を広げる

町内会・自主防災組織・防災士・事業者等の連携を強化

避難支援、災害時情報・生活支援、地域消防など「助け合える力」を底上げ

主な成果指標	策定時 → R7実績 → 目標値
▶防災講座の実施数（／年）	3回 → 5回 → 13回
▶防災士数（累計）	212人 → 362人 → 510人
▶消防団員の定員に対する充足率	84.4% → 81.5% → 92.5%

加速化プロジェクト② SDGsの推進と強靱なまちづくり | 主な見直し内容と成果指標

1 自然災害を教訓とした強靱なまち実現

デジタル技術を活かしながら、防災情報や備えの充実、避難支援、耐震化・インフラ強化などを通じて、しなやかで強いまちへ。

関連施策 3-1 自然災害を教訓とした防災対策の充実
5-1 学校教育の充実
7-1 魅力ある街並み形成と住環境整備
7-2 交通の円滑化と公共交通網の充実／7-3 安定した上下水道の運営

主な見直し・強化 ■「災害リスクの見える化と一人ひとりの備え」を新設
■「災害時の情報・生活支援体制」を新設し、情報発信・通信・支援を強化
■住宅耐震化、橋梁・上下水道・公園等の社会基盤をハード・ソフト両面で強化

主な成果指標

策定時 → R7実績 → 目標値

- ▶ 災害に対する備えができていると感じている市民の割合
- ▶ 橋梁長寿命化修繕計画に基づき修繕した橋梁の箇所数（累計）
- ▶ 上下水道耐震化完了重要施設数（年度末時点）
※上水道管路の耐震適合率からの変更

39.4% → 36.6% → 50.0%

0箇所 → 2箇所 → 9箇所

なし → 25箇所 → 37箇所

2 GX 推進と環境の保全

省エネや再エネ、地域GX、自然・生活環境の保全を一体的に進め、災害に強く、あわせて豊かな自然と生活環境のある地域をめざす。

関連施策 4-1 環境負荷の少ない社会の構築
4-2 自然環境と生活環境の保全
7-3 安定した上下水道の運営

主な見直し・強化 ■省エネ・再エネの活用、環境配慮型住宅の推進、ゼロカーボンシティのいち推進パートナーとの協働を強化
■自然環境・生活環境の保全を継続し、環境教育・啓発を充実
■地域GXを「環境」だけでなく、災害時のエネルギー自給にもつなげる

主な成果指標

策定時 → R7実績 → 目標値

- ▶ 環境保全に係る普及啓発活動の件数（／年）
- ▶ 本市が主催する環境教育に関する教室などの参加人数（／年）
- ▶ 【新設】ゼロカーボンシティのいち推進パートナー登録事業者・団体数（年度末時点）

3件 → 8件 → 12件

54人 → 672人 → 800人
(600人から変更)

なし → 14団体 → 24団体

3 高齢化を踏まえた生活の質の向上

移動手段や交流の場を整えて・社会参加、介護予防などを通じて、高齢になっても安心して暮らせる環境を整える。

関連施策

- 2-1 地域共生社会の構築
- 2-3 支援が必要な人への福祉の推進
- 7-2 交通の円滑化と公共交通網の充実

主な見直し・強化

- 高齢者の見守り・生活支援・相談体制と、地域での役割・交流の場を拡充
- フレイル予防や一般介護予防、認知症支援など「健康で生きがいのある高齢期」を後押し
- 地域公共交通の利便性向上により、車に依存しにくい移動環境を整える

主な成果指標

- ▶ 住民同士が支え合って生活していると感じている市民の割合
- ▶ 地域ボランティアの人数（年度末時点）
- ▶ 【新設】介護予防の通所サービス（短期）の利用者数（／年）

策定時 → R7実績 → 目標値

45.6% → 43.6% → 55.0%

837人 → 2,271人 → 3,000人

なし → 15人 → 100人



シルバーリハビリ体操教室



野々市市総合防災訓練

加速化プロジェクト③「野々市ファン」の拡大 | 主な見直し内容と成果指標

1 転入者の早期定着支援

転入直後の市民に地域との接点をつくり、「野々市に来て良かった」と感じられる機会を増やす。

- 関連施策
- 1-2 ふるさと意識の醸成と愛着心の向上

6-3 働きやすい環境づくり

8-1 開かれた市政の推進

- 主な見直し・強化
- 地域活動への参加促しやガイドブック等を通じ、転入直後から地域との接点をつくる

▪ 若者・子育て世代への暮らし・地域情報を効果的に発信し、地域参加につなげる

▪ 大学・地域団体・行政の連携や住民視点DXで「野々市に来て良かった」を支える

主な成果指標	策定時 → R7実績 → 目標値
▶本市に誇りや愛着を感じている市民の割合	77.8% → 72.9% → 82.0%
▶【新設】本市に誇りや愛着を感じている転入間もない市民の割合（転入後0~4年の市民）	なし → 60.0% → 66.0%
▶人口の社会増減数（計画期間中の累計）	971人 → 557人 → 1,200人

2 まちの個性・魅力発信の再定義

市民と行政が“野々市のいいところ”を再発見し、共有して磨き上げ、発信内容を深めていく。

- 関連施策
- 1-2 ふるさと意識の醸成と愛着心の向上

5-4 文化活動の充実

6-1 商工業の活性化

6-4 魅力の創造・発信によるにぎわいの創出

- 主な見直し・強化
- 歴史・文化資源や地域産品を「野々市らしさ」として磨き上げる

▪ ホームページ・SNS、関係団体との連携により、魅力を市内外へ継続発信

▪ 旧北国街道の回遊・日常的なにぎわい、イベント等をつなぎ、魅力を体験できる機会を増やす

主な成果指標	策定時 → R7実績 → 目標値
▶本市の魅力が他の地域に発信されていると感じている市民の割合	27.8% → 33.5% → 36.0%
▶【新設】個性（特色）あるまちと感じている市民の割合	なし → 41.3% → 42.7%
▶野々市ブランド認定品などの特産品のPR回数（後期期間中の累計） ※野々市ブランド認定品数からの変更	なし → 14回 → 50回

加速化プロジェクト③「野々市ファン」の拡大 | 主な見直し内容と成果指標

3 デジタル技術によるネットワーク強化

SNS・アプリ等で旬の情報を届け、学生や卒業生、転出者などとの「関係人口」のつながりを広げる。

関連施策

- 1-1 共に考え共につくるまちづくり
- 8-1 開かれた市政の推進
- 8-3 安定した行財政運営の推進

主な見直し・強化

- SNS・アプリ等で旬の情報や魅力をタイムリーに届ける
- 学生・大学卒業生・転出者など、市外に暮らす人との継続的な接点を育てる
- 市政情報・地域情報・魅力発信をデジタル技術でつなぎ「応援・参加」できる関係人口を拡大

主な成果指標

- ▶【新設】地域社会DX推進の取組数（累計）
- ▶開かれた市政の推進の施策への満足度
- ▶【新設】住民視点DXに関する取組件数（累計）

策定時 → R7実績 → 目標値

なし → 0件 → 2件
37.5% → 37.8% → 45.0%
なし → 0件 → 1件



東京野々市会総会



広報紙「広報野々市」